診療所だより
第四一二号（９月号）

発行　医）宏友会
上田診療所
酒田市上野曽根
字上中割７３番地
TEL0234-27-3306
責任者　矢島恭一

シリーズ 第６回

白鳥の歌

身を寄せ合って

文・写真　岸谷　英雄

今年の夏も全国各地で大雨による水害が起こりました。庄内でも大雨による川の増水が度々見られますが、そんな時、最上川に残る白鳥さんたちはどうしているのでしょうか？

連載６回目はこの春、シベリアに帰れず今も最上川で身を寄せ合って生きる３羽の白鳥さんについてです。

前回、昨年シベリアに帰れず最上川に残された白鳥さんたちについて書きました。今年の春先も10羽以上の傷ついた白鳥さんたちが出羽大橋付近に残されていました。

こうして残された白鳥さんたちは、毎年だんだん気温が上がるにつれて出羽大橋付近から、より上流へ寝ぐらをかえながら移動していきます。毎年、そうして移動していく中で白鳥さんたちの数がだんだん減っていきます。元気になって飛び去る子もいますが、生き延びれない子もいるのだと思います。今年も、次第に上流に移動しながら姿が見えなくなる子が出てきて、今は３羽だけになりました。

そんな彼らの様子を見ていると、その日その日を一生懸命に生きていることがわかります。川岸近くには、タヌキなどの外敵がいたり、いつも周囲に気を配っています。どこかで聞きなれない音、大きな音がすれば、さっと川へ逃れます。それから先日もあった大雨による洪水。水かさが増した濁流に流されないように、大きな流木にも気をつけて、３羽が声を掛け合いながら、散り散りにならないように一生懸命泳いで、安全な居場所を探しているのがわかります。そんな彼らが元気に無事でいることを毎日祈るような気持ちで見ています。

今回の写真は、その３羽の白鳥さんです。一枚目は洪水の濁流をさけて川岸を泳ぐ白鳥さん（遠く対岸を泳ぐ３羽を拡大して貼りつけています）。二枚目は濁流から逃れられるところに避難した白鳥さんです。

シリーズ「ふるさと」

その165 あなたの顔はどちら？

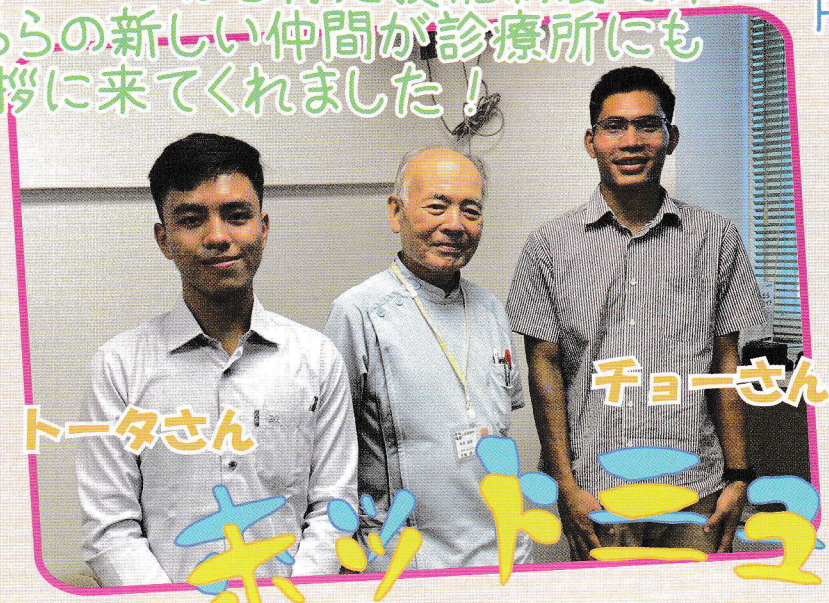
日本人の顔は、吉永小百合さんと岩下志麻さんのどちらかに分類される。吉永さん型の人は、角張った顔で眉やひげが濃く、二重まぶたで目や鼻が大きく唇の厚い顔である。この顔は縄文人の顔に似ており、インド人やフィリピン人に似ている。岩下さん型の顔は弥生人の顔に似ており、細長い顔で目が細く、一重まぶたで鼻や耳が小さく唇の薄いのっぺりした顔である。モンゴルの人々に典型的にみられ、北方アジア系の顔である。

４万年前、縄文人と弥生人は同じホモ・サピエンスで、どちらも縄文顔をしていた。北方アジアに進出したホモ・サピエンスは寒冷地を生き延びるため、顔の出っ張りを減らし、皮下脂肪を厚くしてまぶたを一重にした。極寒の地に適応して長く留まり、縄文人の後に日本列島にやってきて弥生人になった。

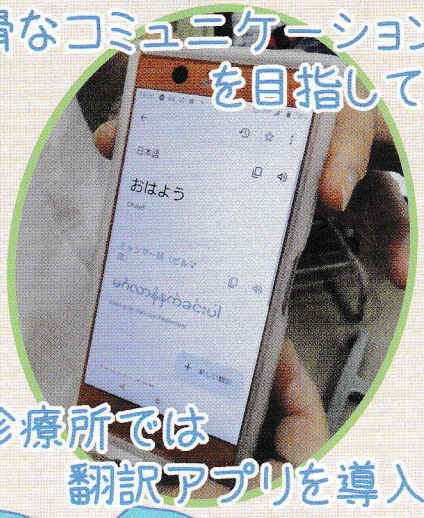
最初（３万年前）に日本列島に渡ってきたのは吉永さん型の縄文人であった。そこへ、二千数百年前に岩下志麻さん型の弥生人が中国や朝鮮半島を経由してやってきた。九州北部に上陸した弥生人は勢力を拡大し、縄文人を北方では東北・北海道へ、南方では九州南部・沖縄へと追いやった。その後、縄文人と弥生人は徐々に混血し日本人になったようだ。

（庄内　平也）

ミャンマーから特定技能制度で来日 うららの新しい仲間が診療所にも挨拶に来てくれました！



円滑なコミュニケーションを目指して

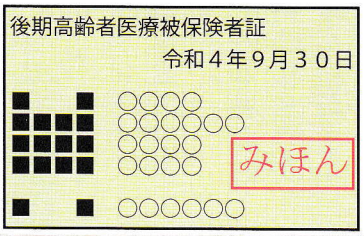


診療所では翻訳アプリを導入

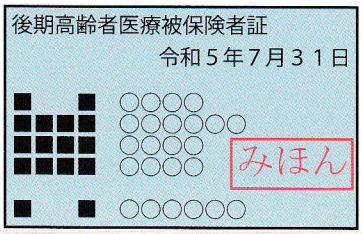
ホットニュース

７５歳以上の患者様へ 後期高齢者医療被保険者証について

現在お使いの「クリーム色」の保険証は９月30日まで使用できます。



10月１日からは「水色」の保険証を提示してください。（９月中に届きます）



ホッとする系の医療小説

矢島　恭一

今月も夏川草介著『勿忘草の咲く町で』という小説を３ヶ月連続で題材にします。

先月号では小説の終わりの方に出てくる「カタクリ賛歌」という章の話を書きました。小説全体の流れは、信州の小さな病院に赴任した研修医と若い看護師がお互いに惹かれ合うようになるラブストーリーとして書かれていますが、その中に様々な地域医療、高齢者医療のあり方というシリアスな問題について先輩医師の多様な考え方を絡ませながら真摯に向き合う姿を描いていると紹介しました。

この本の解説を書いている鶴岡市出身の作家・佐藤賢一氏によると、現代は医療小説が広く読まれ、ブームといってもよいかもしれないという。彼はそれらを大きく２つのジャンルに分けている。

《ひとつはゾッとする系の医療小説。脳科学、臓器移植、人工受精、遺伝子治療、クローン技術等々、医学の最先端や最新医療の実践が描かれ、こんなことが起こりえるのだと驚き驚き読み進めるほど、いつしか背筋が寒くなる―というような作品群。一種のＳＦ小説であり、ことの性質から作中しばしば人が死ぬが、関連してミステリー仕立てで書かれることも珍しくない》と分析している。

《もうひとつは、ホッとする系の医療小説。医者と患者の心の交流や、医者と医者、あるいは看護師、療法士、検査技師との係わり合い、つまりは医療現場における人間関係が描かれた、ヒューマニズムあふれる作品群のこと。医師が悩み、苦しみ、迷いながら成長していく物語であるとすれば、形を変えた教養小説という言い方も可能だ》と書いている。

医師になってかれこれ50年。医療の世界にどっぷり浸かっていると大小の違いはあるものの日々様々な事件が起きます。

診療所の中のスタッフだけで共有するのはもったいないので、文章にして残したいと思うエピソードもたくさん経験します。医者で作家という才能の持ち主は世の中にたくさんいるので、私も小説に出来るのではないかと夢想してみるのですが、次の瞬間「俺にはそんな才能はないのだ」と現実に引き戻されてしまうことが何と多かったでしょうか。

そこで作家は諦めて、読み手となって医療小説を読むことにずっと徹してきました。私が好んで読むのは、佐藤氏の分類による「ホッとする系の医療小説」です。

そもそも本を読むときの精神状態は、自律神経でいうところの副交感神経優位の状態にあるときだと信じているから、リラックスしている時に敢えてドキドキするような「ゾッとする系の医療小説」は読みたくないのです。

医療小説に限らず私は「ホッとする」ような話や言葉が好きで、テレビの番組であれ、ラジオ番組であれ、映画の類いも、心が「ホッとする」ものを追い求めてきたような気がします。それもフィクションではなく、ドキュメンタリーに近いものかな。

しかしここに難しい問題があるのです。人が亡くなるシーンがあったとします。よくドラマの演出で使われる、心電図モニターの波形が突然フラットになったり、呼吸が止まって首がカクッと落ちるシーンなどはフィクションもいいところ。臨終の別れの際には、もっとたくさんのドラマがあり、濃密な時間の経過があるはずなので、私的には絶対に許されないのです。

私が小説家になれないのは、文才がないことが一番の理由ですが、より現実を表現しようとすると必ず壁にぶつかり解決できないでいるということもあるのです。

こどもたちのさくひん

うえだこども園

▶福島発☆桃農家が実家の友人から届く美味しい桃！毎年夏の楽しみです。

vestagram

事務主任
池田 萌子

▶男鹿水族館のホッキョクグマ！普段は勇ましくてもこの猛暑でバテバテの様子でした（笑）

職員が撮ったお気に入りを紹介します★

脳トレ アタマの体操

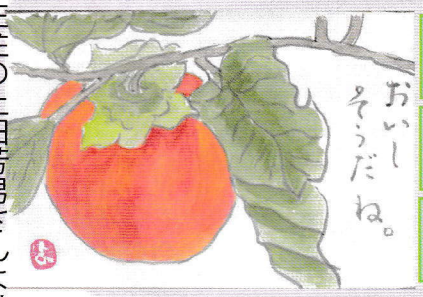
☆矢印の方向に読むと、二文字の熟語になります。□にはどんな漢字が入るでしょうか？

格→□→論
伝→□→動

８月号の答え

第一問　イワシ
第二問　ホタル　でした！

今月の絵手紙



富山市在住の土田芳男さんより届いた絵手紙をご紹介します。

職員募集のお知らせ

医療法人宏友会では令和５年度新規採用職員を次の通り募集致します。

募集職種
看護師、介護職員、支援相談員、理学療法士、作業療法士、医療事務

異業種からの転職、大いに歓迎します。

応募資格　資格取得予定者歓迎
試験日　11月20日（日）
試験内容　適性検査・小論文・面接
募集人数　いずれも若干名
応募〆切　10月31日（月）

◆問い合わせ◆
上田診療所　村上
〒999-8162
酒田市上野曽根字上中割73
☎0234-27-3306

お知らせ

＊新型コロナウイルス検査（抗原検査・遺伝子検査）できます。検査をご希望の方はスタッフまでお声がけください。予約は電話にて可能です。

編集後記

「あっ、危ない！」濁流の向こう側に白鳥さんたちがいる状況は緊迫感が漂っています。過酷な状況を乗り越えて、落ち着いた後の元気な姿を見るとホッとしますね。（阿部）

印刷　（株）小松写真印刷